

# 平成27年度 阿賀野市生活科部 活動報告

部長 齋藤 寛子

## 1 研究主題 「子どもが生き生きと活動できる教材開発」

## 2 活動内容の概要

阿賀野市生活科部の活動

- ・ 4月 第1回部会 今年度における組織及び事業計画の立案
- ・ 6月 第2回部会 研修内容 「水辺の生きものの観察と飼育」
- ・ 11月 第3回部会 研修内容 「うごくおもちゃづくり」

## 3 研究の実際

研修1 「水辺の生きものの観察と飼育」

講師 三市北蒲原郡地区理科教育センター 堀文夫先生・長谷川直紀先生

子どもたちにとって、水辺の生きものは、とても魅力的な教材である。子どもたちに、その観察をとおして、生きものの習性を学ばせること、いのちの尊さ・生きものを育てる態度を養成することは大切なことである。教室で飼育したいと思っても、生息している場所が分からないことも多い。そこで、今回は、水辺の生きものが生息している場所に連れて行っていただき、水辺の生きものの捕まえ方、飼育のポイントなどを教えていただいた。

飼育のポイントについては、①水そうは、直射日光が長時間当たらない明るい窓際がよいこと、②餌は、食べ残しがな



くらい（やや少なめ）の量にすること、③くみ置きの水で水替えをするとよいこと、④水草は市販のオオカナダモが便利であることを教えていただいた。子どもたちの興味・関心を高めるために生活科学習の教材を準備していく研修としては、適している内容となった。

研修2 「うごくおもちゃづくり」

講師 三市北蒲原郡地区理科教育センター 中村公義先生

子どもたちにとって、動くものや飛ぶものは、魅力がある。そこで、実際に動くおもちゃを作り、動かす研修を開催した。子どもたちがどこに面白さを感じ、試行錯誤をし、作り直そうと意欲をもたせることができるかを考えさせられた。この単



元でのポイントは「比べる」「繰り返す」「試す」の3つであると指導いただいた。子どもたちが遊びの面白さや自然の不思議に気付くための視点、人とのかかわりを楽しむために必要なことも考えさせられた。気付きの質を高めていくためには、適している内容であった。

## 4 成果と課題

水辺の生きものを飼育するにあたっては、飼育のポイントをおさえることによって、より長く飼育することができ、子どもたちもより長く生きものと触れ合うことができることが分かった。また、動くおもちゃについては、材料が十分にあることが大切であるため、教師の事前の準備が必要であると実感した。子どもが生き生きと活動するための工夫をしていこうと思える有意義な研修であった。